

ハート・オブ・ゴールド

通信



vol.47

2022年7月15日発行

発行/編集 ハート・オブ・ゴールド事務局
本部 〒701-1213 岡山市北区西辛川 895-7
レジデンスアロー 101
TEL&FAX 086-284-9700
E-mail: hginfo@hofg.org
https://www.hofg.org/



パラ陸上競技会の選手とスタッフ



車いす 100m



選手発掘事業で反復横跳びを指導



選手発掘事業で手作りの測定器を使用した長座体前屈

第4回 カンボジアパラ陸上競技会

プロジェクト・オフィサー 米山 遥香

プノンペンに新しく完成した Morodok Techo National Stadium (モロドック・テチャー・ナショナルスタジアム)にて、2022年3月25・26日にカンボジアパラリンピック委員会と共催で第4回カンボジアパラ陸上競技会を開催しました。

クラウドファンディング「カンボジアの障害者が輝ける場を！パラ陸上競技会を開催したい！」(2021年2～3月)を支援して下さった74個人・企業・団体の皆様、継続してスポンサーとしてご支援いただきましたActive People's Microfinance Institution PLC様、本当にありがとうございました。新型コロナウイルスの影響により、1年延期の開催となりましたが、パラ陸上選手32名(立位27名、車いす5名/男性25名、女性7名)が、100m、200m、400m、走り幅跳び、砲丸投げの種目に参加しました。カンボジア国内での大会が少ない中で、この大会を継続的に開催することは、選手のトレーニング成果を発揮する場となり、モチベーションアップにつながります。また、2023年にはカンボジア初の自国開催となる東南アジア大会・パラ競技大会を控えており、スタッフの大会運営ノウハウの蓄積の場ともなっています。

コロナ禍、長らく競技場でのトレーニングができなかつ

たため、久しぶりにトラックを走ることができて、選手達が喜んでいただいていたことがとても印象的でした。単に競い合うということだけでなく、とても有意義な時間を過ごせたのではないかと思います。

大会に先立ち2月27日、新たな選手発掘のため、バットアンバン州にある障害者支援施設 Karuna Battambangにて、日本の専門家にもアドバイスをいただき、HGの

体育科教育支援事業で取り入れている体力テスト(身長・体重測定、長座体前屈、反復横跳び、立ち幅跳び、50m走)を実施しました。車いすの方ができない反復横跳びは3mの距離を行き来する種目に、立ち幅跳びはボール投げにする等、障害によって種目を変えて、

19名の方の基礎体力を測り

ました。結果をもとに、該当するパラ陸上の種目・障害クラスがあるか、実際のポテンシャル等、コーチ、パラ陸上選手、HGスタッフの3者で総合的に判断し、参加者のうち7名を「第4回パラ陸上競技会」に招待しました。

大会100mで銅メダルを獲得した参加者は、コーチからスカウトを受け、パラ陸上選手として活躍するという新たな夢を語ってくれました。

引き続き、障害を持った方がスポーツを通して輝く機会をつくる活動を行っていきます。



パラ陸上競技会 女子100m スタート前

【日本 NGO 連携無償資金協力事業】

国立体育・スポーツ研究所 (NIPES) 体育科コース 4 年制大学化プロジェクト

プロジェクト・マネージャー 手束 耕治

2022 年 2 月 28 日に第 2 年次事業が終了し、3 月 1 日から第 3 年次事業が始まりました。

新型コロナウイルスの感染拡大が続き、NIPES も閉鎖されて授業がオンラインとなる厳しい状況の中で、第 2 年次は実際の運営を通じ、第 1 年次で作成した体育科コース運営ハンドブックを改訂し、シラバスも実際の授業で使用し改訂を行いました。また施設面では、プール周辺の建物建設やジム機材の設置が完了しました。

予定していた 2 回の日本研修は中止しましたが、それに替えてカンボジア国内での体育教員研修会を 1 月 20 日から 22 日まで追加実施。2 月 9 日から 11 日に最後の体育教員研修会を実施して、授業評価の方法、教育実習計画の作成、講義型と実技型の授業の関連性などについて研修し、日本体育大学岡出教授によるオンライン講義「専門科目の授業における教授法と学生の適切な評価」も行いました。

タイとインドネシアへの研修も中止としましたが、2 月 16 日にインドネシアの大学関係者とオンライン会議を開催し、今後の相互協力に向けた情報交換を行いました。

NIPES の授業のモニタリングを 1 月、2 月に評価シートを用いて NIPES の講義と実技の授業を 3 回モニタリングしました。



5 月 31 日、学生寮の新屋根構造設置工事完了

3 月 1 日より第 3 年次の活動が始まり、NIPES の学生寮の屋根、天井、床の全面交換改修工事が順調に進んでいます。3 月 21 日から 31 日にかけて、前期修了試験が実施され、講義と実技の試験をモニタリングしました。

4 月 11 日は後期に実施する教育実習の準備会議を行いました。1 年生は 5 月 2 日から 14 日、4 年生は 5 月 2 日から 7 月 9 日まで市内の中学校、高校で教育実習を実施し、その状況をモニタリングしました。

また、今回は英語の体育教育関連書籍を購入、翻訳し、教員用のクメール語のテキストを作成します。5 月 17 日、18 日に教科書作成のための第 1 回研修会を実施しました。翻訳を進め、年内に体育の教授法と教授方法論のコースのテキストが完成する予定です。

【JICA 草の根技術協力事業】

カンボジア王国 小学校から高等学校まで一貫した高い質で学ぶ「Physical Education for All」プロジェクト

プロジェクト・マネージャー 西山 直樹

カンボジアのプノンペン都、バタンバン州、スヴァイリエン州の全ての小・中・高に態度・知識・技能が学べる新しい体育を普及する本プロジェクトは、2022 年になり学校が再開され、ワークショップ、モニタリングを実施できるようになりました。

2021 年 12 月、各都・州の教育局担当官が中心となり、新しい体育の普及計画を作成しました。オーナーシップを都・州に渡すことにより、彼らが責任を持ち、将来的には各都・州による予算確保にもつなげていきたいと考えています。この普及計画をもとに、2022 年 1 月以降はモデル都・州での活動を進めています。

1 月から 2 月にかけて、普及計画を説明し、新しい体育の導入を進めることができる人材を育成するための体育普及計画実践人材育成ワークショップを各都・州で開催しました。3 月には、各都・州の小・中・高のモニタリングを実施しました。どのように学習指導要領や指導書を読み、実際の体育の授業を実施したらよいか分からない先生が多く、4 月、5 月にかけて、改めて指導書に沿った年間計画、単元計画、指導案の作成、それらを用いた実際の授業実践、体育授業の評価、学校内で

体育を導入していくためのマネジメントを説明するワークショップを開催しました。ワークショップでは、実際に指導案を作成したり、授業に生徒役として参加したりすることにより、先生達は体験を通して学ぶことができました。

5 月 9 日から 13 日に行ったバタンバン州でのモニタリングでは、ワークショップで学んだ新しい体育の実践を早速導入しており、ワークショップの成果が表れていました。スヴァイリエン州、プノンペン都についても同様にモニタリングを進めていくことで、新しい体育の浸透を目指していきます。



スヴァイリエン州体育授業モニタリング (3 月)

コロナ禍で現地持ち込みできない物資をコンテナ便で届けました

—カンボジアまでこころお届けプログラム—

国際ロータリー第 2780 地区第 3 グループ様からの呼びかけで藤沢市内の学校等から、たくさんの運動靴、タオル、石鹸を寄付していただきました。日本からコンテナで運び、約 2 か月後の 5 月にカンボジアに到着しました。

運動靴 70 足をバタンバン州にあるアヌワット小学校 1 年生から 6 年生の生徒へ、210 足をプノンペン都ポントラバエク中学・高等学校の中学 1 年生から高校 2 年生の生徒へ配布しました。生徒達は「かっこいい!」と言いながら嬉しそうに靴を選んでいた。小学校低学年の子ども達の中には靴を初めて履く子もあり、先生に手伝ってもらいながらサイズ合わせや靴を履く練習をしたりしていました。ポントラバエク中学校では早速、体育の授業で使用し、「これで足が痛くならない」と喜んでいる様子でした。生徒達は「きれいな靴をありがとうございました」と、とても感謝していました。

配布にはいずれも各学校に配属の JICA 海外協力隊員に協力いただきました。配布後も生徒の使用状況の確認や体育授業での使用を呼び掛ける等、HG に代わって指導し、また様子を知らせてくれています。

運動靴を正しく履くことで、体育の授業に安全に参加できるようになります。いただいた物資は、必要としている方々へ行き渡るよう引き続き配布を進めていきます。



—カンボジアにランニングシューズを贈ろう—

栄光スポーツ様に呼び掛けいただいて集まったランニングシューズ、Tシャツ等をカンボジアパラリンピック委員会を通じ、パラ陸上選手に贈呈いたしました。ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

カンボジアでは質の良いランニングシューズを手に入れることは難しく、また高価なため、シューズに穴があき、ボロボロになっても履き続けていました。

新型コロナウイルスの影響も落ち着き始め、国際大会などにも参加するようになっていきます。

毎年定期的に支援いただけるようになり、パラ選手達は、日本の皆様の想いが詰まったシューズとTシャツを身に付けて、より一層トレーニングに励むことができると、とても感謝していました。

国際理解教育 — オンラインでつながる交流 —

副代表理事 田代 邦子

学校の IT 化が進んで、小学生でコンピューター教育が行えるようになった今、HG も現地の子も達と日本の子ども達との交流をオンラインで進めています。

インターネットで何でも調べられる世の中ですが、双方向のオンライン交流は、事前に、相手のことを調べたり、質問したり、知らせたいことを考えたりする、準備から始まります。一方的に知るだけではなく、顔を見て、声を交わして現地



教室と NCCC を結んで交流

会っているような時間を過ごせます。交流し、相手を知ること、何かやりたいとの想いをみんなで話し合っ、活動につなげます。そして、やったことがどうなったかを、確認して、最後は「できた!」「役に立った」という喜び



チアシム小学校に日本の小学校からのプレゼント スピーカーを寄付

を感じて 3 学期を終えます。

知らない世界を体験することで、それまでの自分や、自分の生活が変わっていくことにつなげたいと思います。

ともすれば IT が社会のスピードを助長し、簡単につながり、簡単に切れる関係となりがちですが、丁寧につながるスタートとしてオンライン交流を実施しています。

ニュー・チャイルド・ケアセンター (NCCC)

プロジェクト・アシスタント 平井 利恵

昨年の NCCC の栄養調査の結果を受け、子ども達の食事について、塩分を減らし、タンパク質とビタミン・ミネラルの継続的な摂取を図っています。

カンボジア国内で、安価で入手しやすく、メニューとして取り入れやすい食材ということから、5月から毎日、茹で玉子とバナナを取り入れることにしました。

玉子はタンパク質を多く含み、カンボジアでは肉や魚より安価です。バナナはエネルギー源として摂取しやすく、ビタミンとミネラルが豊富で、身体の調子を整えます。これを続けて、栄養バランスが整い、子ども達が健康に育ってほしいと思います。

株式会社大町様より、NCCC の子ども達に日本の駄菓子をプレゼントしていただきました。昨年までの2年間はコロナ禍でロックダウンを繰り返し、学校は休校になり、NCCC から外に出ることもできない日々が多くありました。そんな中で、見たこともない日本の駄菓子を目の前に、子ども達は、大はしゃぎでした。気になるお菓子を自分で選んでも、友達のものも気になります。皆がそれぞれ気に入ったお菓子を手に、青空の下でピクニックをするかのように集まり、笑顔が溢れた時間になりました。

4月14日～16日はクメール正月でした。カンボジア



茹で玉子とバナナには名前を書いています

の人々にとって最大の行事です。例年、NCCC の子ども達は里帰りをし、久しぶりに会う家族と大切な時間を過ごしますが、コロナ禍で子ども達は3年続けて里帰りできませんでした。子ども達が楽しい気持ちでクメール正月を過ごせるよう、日本の皆様からご支援いただいた物資でお買い物遊びを企画、実施しました。NCCC では、自分でお金を出してほしいものを自由にお買い物する機会がほとんどありません。お買い物遊びでは、お金に見立てたチケットを子ども達に配り、自分の欲しい物と交換します。洋服、文房具、絵本、石鹸など。日本の駄菓子もあります。小さな手にチケットを握りしめて、皆並んで順番に自分の欲しい物を選びます。いろいろ欲しいけれど、手元に残るチケットの数は少なくなり、チケットを無駄に使わないようにします。お金の使い方を遊びながら経験しました。

ハート・オブ・ゴールドは家庭に近い環境で養育しています。そして、多くの経験を重ねることで子ども達自身が自立に向かって歩むことを目指します。



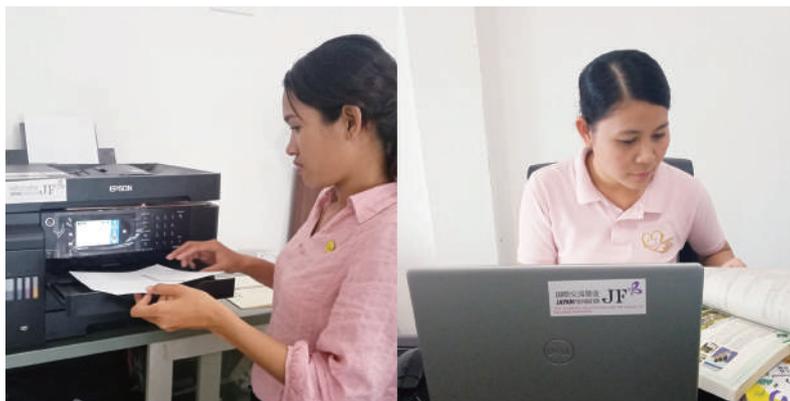
日本のお菓子を前に、興味津々で食べる子ども達

HG ももたろう日本語学校

国際交流基金の「2021年度生活・就労のための日本語教育機関支援プログラム」にて、2022年2月に、テキスト、問題集、指導書など33点の教材と、ノートPC 3台、A3対応プリンタ複合機、プロジェクター、スピーカーのICT機器の助成を受けました。

教師は1人1台のPCを自由に使うことができるようになり、また、印刷、スキャンも街のコピー店に頼むことが減りました。現在、HGももたろう日本語学校では、対面とオンラインを合わせた授業を実施しており、実際の授業や準備、教材研究等が効率的に行えるようになりました。

日本への留学、就労のための渡航が再開され、本校の学生も徐々に動き始めています。



第10回アニモの会



参加いただいたスポーツ団体の皆様

6月24日(金) 18:30より、ホテルグランヴィアにて、岡山を代表する11のスポーツ団体*にご参加いただき、3年ぶりに開催することができました。

約130名の岡山のスポーツの力を信じる皆さんが集まり、スポーツの力を発信する場、スポーツの力を信じる人達がネットワークを築ける場となりました！

世話人の皆様、本当にありがとうございました！

* ファジアーノ岡山、岡山シーガルズ、吉備国際大学 Charme、岡山湯郷 Belle、トライフープ岡山、岡山リベッツ、グロップサンセリテ WORLD-AC、平林金属ソフトボール部、ハレクティオ岡山、全日本フリースタイル BMX 連盟、Almost Japanese (報告順)

中津川法人会社団化50周年記念講演



2022年5月26日、中津川市の東美濃ふれあいホール(通称、歌舞伎ホール)にて、有森代表の記念講演、そして「障がい者事業を通して思うこと」と題し、株式会社ミライロ代表取締役社長の垣内俊哉氏と、それぞれの立場から障害者事業の活動や取り組み、今後目指すところなどについて対談が行われました。

ハート・オブ・ゴールド設立当初からの会員の方にご縁をいただき、実現しました。

あわせて、中津川公園陸上競技場に2台のチャリティ自動販売機設置もご協力いただきました。



垣内氏、丸山氏と

ARIMORI CUP マラソン教室

2022年5月22日、北海道むかわ町穂別地区の鶴川河川敷で、約30名の小・中学生を対象に、マラソン大会の代替イベントとしてマラソン教室が開催されました。有森代表の掛け声で準備体操が始まり、靴のはき方やひもを結ぶ時の注意や走るときのコツなどアドバイスがあり、ランニング練習、最後はリレーで締めくくりました。桜が散って間もない北海道にしては暑い日となり、参加の子ども達、見守る保護者や先生方、運営スタッフの皆さんも暑い2時間を過ごしました。



アンコールワット国際ハーフマラソン、12月4日(日)開催予定

コロナ禍、2020年大会は開催を延期し、翌2月にシエムリアップ、プノンペンでの2会場開催。2021年大会も日程を1月2日に延期し、カンボジア国内の参加者のみで実施。

2022年は予定どおり開催されることを多くの人が望んでいます。

ツアーについては、今年も実施を断念しましたが、有森代表をはじめHGスタッフは、現地を訪問予定です。ご参加希望の方は、本部事務局までご連絡ください。



事務局長交代にあたって

前事務局長 田代 邦子

今思うに、浅学菲才な身でありながら、開設時いわれがままに、よくも事務局長を拝命したものだと感じています。

1998年の設立当初は、国際協力、特にスポーツを通じた開発分野は、国際交流に位置づけられており、ほとんど未開拓の状況でした。在籍した24年の間に、日本のNGO/NPOは国内外で飛躍的に広がり発展しました。NPO、ボランティア、国際協力、SDGs……の単語は、私達の身近な言葉として、生活の中に根を張っています。しかし、世界は好むと好まざるに関わらず、グローバル化が進み、互いに密接な関係となり、微妙なバランスの中に置かれており、分かち合いの時代から、奪い合いの時代に逆行しているような怖さを感じています。

HGでは、「スポーツは未来を変えられる」との有森代表の想いに先導され、同じ思いを持つ素晴らしいスタッフに恵まれ、そして賛同して下さる多くの方々の後押しを受けながら、今日まで活動ができたことは本当に感謝でしかありません。ここに、篤い想いと知識を持った若い西山直樹氏にバトンを渡すことができ、より幸せを実感しています。

非営利の活動に関わっていると、それまで大切だと思っていたことが消え、本当に大切なこと(人)を知らされます。活動が誰かのためでなく、結局自分のためであったことはみんなが行き着くところです。

どうか皆さまには、今後ますます、西山事務局長を応援していただくとともに、非営利の不思議な世界を感じてほしいと思っています。



西山新事務局長(左)、田代前事務局長(右)

新事務局長 西山 直樹

2022年4月より田代邦子前事務局長から引き継ぎ、事務局長に就任させていただきました。とはいえ、6月17日までは兼任している東南アジア事務所長としての業務、プロジェクト業務のため、事務局長業務をほとんどできず6月21日に岡山の本部に着任いたしました。

2012年からハート・オブ・ゴールドの東南アジア事

務所長としてカンボジアに赴任して以来10年が経ちました。皆さまのご支援の力もあり、各事業着実に成果を残し、体育支援事業に関しては、体育大学の設立支援まで事業を展開することができました。これも皆さまから温かいご支援を継続していただけたおかげだと感じております。

せっかくの機会なので、大きな夢を持ちたいと、ハート・オ

ブ・ゴールド有森代表のリーダーシップの下、日本だけでなく、世界的にも大きなスポーツ・教育NGOとして、さらに進めていきたいと思っています。「大きな」というのは、規模としてではなく、事業成果として達成できることを目指したいと思います。

有森代表、田代事務局長が中心となって築いてきたハート・オブ・ゴールドの歴史を丁寧に引き継ぎ、現代の世界社会に合った、より先進的なNGOとなるべく、本部事務局、東南アジア事務所が1つのチームとなり、確固とした理念の下、一丸となって共に歩んでいければと思います。

若輩者ですが、引き続き、皆さまからご指導・ご鞭撻いただければ幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

主な活動報告(2022年前半)

- 1/2 第27回アンコールワット国際ハーフマラソン
- 1/26 SFT(SPORTS FOR TOMORROW)シンポジウム
- 2/2 地域ステップアップセミナー(JANIC/オンライン)
- 2/3 国際貢献NGOフェア(岡山国際交流センター)
- 2/14 外務省NGO連携無償資金協力事業第3年次署名式
- 2/25 草の根実践事例共有会(JICA中国 オンライン)
- 3/19-20 第10回淀川マラソン
- 3/23 HGももたろう日本語学校オンライン説明会
- 3/25-26 第4回カンボジアパラ陸上競技会
- 3/28 交流活動報告会(岡山市立第三藤田小学校)
- 4/6 岡山せとうちライオンズクラブ 例会にて活動報告
- 4/17 第32回かすみがうらマラソン
- 5/16 NCCC 玉子&バナナプロジェクト開始
- 5/21-22 マザーフォレスト事業/ほべつARIMORI CUPカップマラソン教室
- 5/26 中津川法人会社団化50周年記念講演・対談
- 6/2 岡山市立第三藤田小学校 出前授業

- 6/24 第10回アニモの会
- 6/25 理事会・総会
- 6/29 朝日塾小学校出前授業

主な活動予定(2022年後半) 変更あり

- 7月 HGももたろう日本語学校2022年7月期スタート
- 7/33 NIPES体育科コース4年制大学化
プロジェクト本邦研修(4名/日本体育大学)
- 9月 JICA「PE for ALL」プロジェクト本邦研修
- 9/16 HG長岡クラブ10周年
- 10/2 第12回親子チャリティマラソン in おもちゃ王国
- 10/14 HG福島クラブ10周年記念式
- 10/15 福島県立保原高校100周年記念講演
- 10月/11月 NIPES体育科コース4年制大学化
プロジェクト本邦研修(4名/日本体育大学)
- 12/4 第28回アンコールワット国際ハーフマラソン
(シェムリアップ)

第 24 回 2021 年度通常総会

6月25日(土)リアルとオンラインのハイブリッド形式で、岡山国際交流センターにて、総会を開催しました。2021年度事業報告並びに決算報告、2022年度事業計画並びに予算、定款変更など全ての議案が承認可決されました。

今までの正会員(個人・法人)に、HG開設以来初めて改定をして、賛助会員(個人・法人)の種類を増やしました。詳細は同封チラシに説明しています。これを機に、皆様にはぜひ賛助会員の登録もご検討をお願いします。



— 総会資料について —

第3号議案[定款変更 新旧対照表]が、新と旧が逆になっておりました。正しくは、左が旧、右が新です。お詫びして訂正いたします。

*あなたの想いを形にしませんか

相続財産、または、遺贈としての寄付をお願いしています。ご寄付には相続税がかかりません。詳細は事務局にご相談ください。

*新スタッフ紹介

5月より本部事務局に山田清子(経理)、東南アジア事務所にインターン吉村ひかり(NIPES事業)が加わりました。

*集めています

未使用の切手、書き損じはがき、レターパック、クオカード、商品券…など、事務局にお送りください。

*ボランティア・インターン募集!

本部事務局にて、事務補助、翻訳、イベント補助をしてくださる方。

【メールアドレスの登録をお願いします】

経費削減のため、通信やお知らせ等をメール配信する準備を進めています。ご協力いただける方は、右QRコードをスマホなどで読み込み、登録用の画面で手続きしてください。





年会費納入のお願い 及び 会員種別変更のお知らせ

2022年6月の総会で、定款変更が承認され、設立以降初めて会員種別が下記の通り変更になりました。

旧：この法人の会員は次の2種とし、法人会員並びに個人会員をもって特定非営利活動促進法(以下(法)という)上の社員とする。

新：この法人の会員は次の2種とし、正会員並びに賛助会員をもって特定非営利活動促進法(以下(法)という)上の社員とする

【正会員と賛助会員のちがいは】

名 称	内 容	会費の額	
正会員	この法人の目的に賛同し、運営に参加するために入会した個人又は団体(設立時から変更なし) 総会時に議決権はあるが寄付金控除証明書は発行されない	個人正会員	3,000円
		法人正会員	30,000円
賛助会員	この法人の目的に賛同し、事業を賛助するために入会した個人及び団体 総会時に議決権はないが全額寄付金控除証明書は発行される	個人賛助会員	10,000円
		法人賛助会員	50,000円

銀行振込：中国銀行 本店営業部 普通預金 3009402

特定非営利活動法人ハート・オブ・ゴールド 代表理事 有森裕子

トクヒハート オブ ゴールド タケヨリジ アリキョウ

ゆうちょ銀行振込：郵便貯金 01300-3-11024

特定非営利活動法人ハート・オブ・ゴールド

トクヒ) ハート オブ ゴールド

クレジットカード払い：CANPAN 決済サービスにて正会員年会費、寄付をご利用できます

(賛助会員会費につきましては、現在準備中)。 <https://kessai.canpan.info/heartsofgold/>

※HG への寄付は税制優遇措置の対象となります



銀行振込の場合は、お手数ですが、住所、氏名、連絡先、入金内容を、必ずFAX (086-284-9700) かメール(hginfo@hofg.org)で、別途ご連絡ください。現住所が不明の場合は、領収書の発行ができません。